



小松精練株式会社

第101期 報告書

平成 24 年 4 月 1 日 ▶ 平成 25 年 3 月 31 日まで

BUSINESS REPORT

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素から格別のご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

ここに小松精練株式会社の平成25年3月期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の業績についてご報告申し上げます。

株主の皆さまには、平素から格別のご支援を賜わり、厚くお礼申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災復興需要の底支え等を背景とする緩やかな回復基調の中、終盤は新政権による矢継ぎ早の経済政策の期待から過度な円高が是正され株価も上向く等、景気回復への期待感が高まってきました。しかしながら、長

引く国内の消費不振や欧州の債務問題並びに新興国経済の減速等の影響を受け、総じて厳しい状況が続きました。

このような状況の中、当連結会計年度の売上高は35,905百万円（前期比3.5%減）となり、営業利益は1,285百万円（前期比34.9%減）、経常利益は1,810百万円（前期比24.5%減）、当期純利益は1,200百万円（前期比16.4%減）となりました。

この業績を踏まえ、当期の期末配当金につきましては、普通配当は1株当たり6円とさせていただきます。また、今年は設立70周年となりますので、1株当たり2円の記念配当を予定し、これにより、期末配当金は1株当たり8円となり、中間配当金と合わせた年間配当は1株当たり14円となります。

今後におきましては、景気回復への期待感はあるものの、潜在する欧州債務危機や新興国経済の減速等、依然として下振れリスクがあり引き続き先行き不透明な状況であることが予想されます。当社グループは「明日を創造する」をスローガンに、美・健康・安全・

快適の4つのテーマを軸としてクロス型開発プロジェクトによる商品・技術開発を加速度的に強化するほか、全社挙げての一層のコストダウン及び生産性の向上を推し進め、国内・海外問わず成長市場・分野での事業拡大の施策と収益基盤の強化を図ります。又、当社グループの企業活動においては、省エネ・省資源における生産や低環境負荷における生産、引いてはゼロ・エミッション化の実現にも積極的に取り組み、低エネルギー及び低炭素社会への適応を目指していきます。

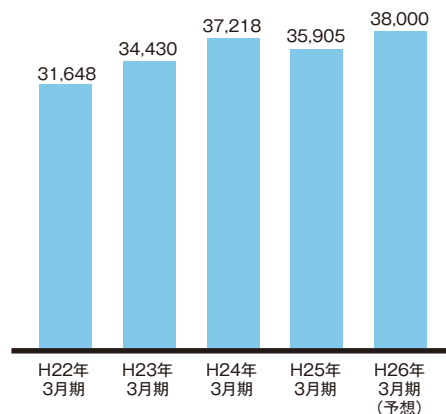
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜わりますよう、心からお願い申し上げます。



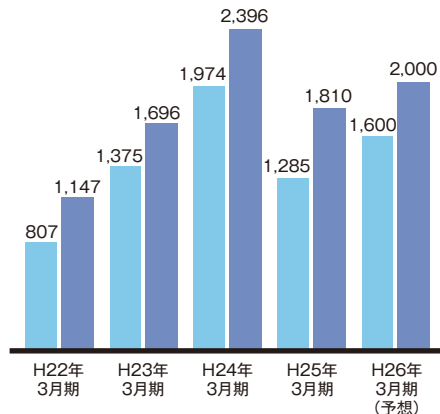
小松精練株式会社
代表取締役社長 池田 哲夫

売上高

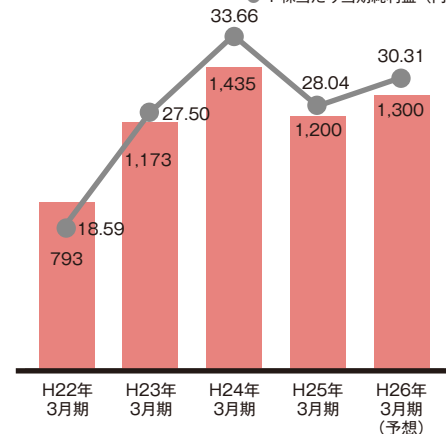
■ 売上高 (百万円)



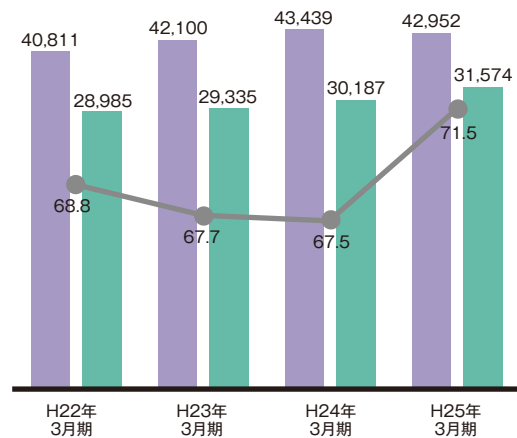
営業利益・経常利益

■ 営業利益 (百万円)
■ 経常利益 (百万円)

当期純利益・1株当たり当期純利益

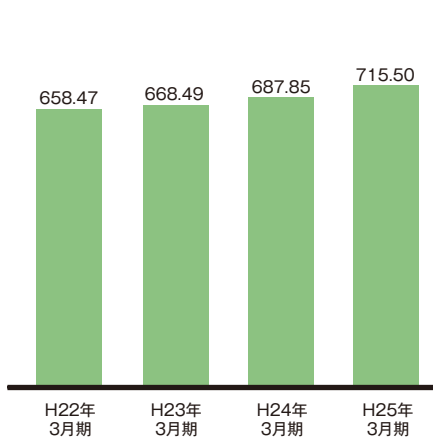
■ 当期純利益 (百万円)
● 1株当たり当期純利益 (円)

総資産・純資産・自己資本比率

■ 総資産 (百万円)
■ 純資産 (百万円)
● 自己資本比率 (%)

1株当たり純資産

■ 1株当たり純資産 (円)



次期の見通し

今後の経営環境は、円高基調の修正など景気回復への期待感がありますが、引き続き欧州経済が低迷する懸念や新興国経済の減速など、依然として不透明な状況が続くものと予想されます。このような中、当社グループは独自技術での優位性を発揮し、美・健康・安全・快適のテーマで持続的な成長を目指します。

次期の連結業績は、売上高 38,000 百万円（前期比 5.8% 増）、営業利益 1,600 百万円（前期比 24.4% 増）、経常利益 2,000 百万円（前期比 10.5% 増）、当期純利益 1,300 百万円（前期比 8.3% 増）を予想しております。

① 先端ファブリックの開発・新規市場の開拓

グループ内や国内外の有力企業、産官学との戦略的連携（クラスター）の強化を図り、感性・機能性の両面で、グローバル・マーケットに通用する先端ファブリックのスピーディな開発と新規市場の開拓に努めます。主力の繊維事業の拡大は勿論のこと、特殊セラミックス基盤グリーンビズの事業拡大や先端材料を使用した産業資材分野への取り組みで、新規事業の確立拡大に挑み続けます。

② 生産拠点の整備で効率的生産の実現

めまぐるしく変化する環境に対応してポートフォリオの組み換えを図り、生産拠点の統廃合を含めた生産ラインの整備を行い効率的な生産を進めます。又、海外生産拠点である小松精練（蘇州）有限公司においては、現地企業との差別化を図るための商品の高度化を更に促進してまいります。

③ 環境対応経営

環境改善を可能にする素材の開発と環境材料や低環境負荷素材等の市場導入を図ると共に、省エネ・省資源・低環境負荷を可能にする生産技術を継続的に向上させて参ります。

これらの取り組みを、グループ一丸となり推進することにより、平成 26 年 3 月期の業績を次の通り見込んでいます。

次期の見通し（平成 26 年 3 月期）		前期比
■売上高	38,000 百万円	5.8%増
■営業利益	1,600 百万円	24.4%増
■経常利益	2,000 百万円	10.5%増
■当期純利益	1,300 百万円	8.3%増

事業別売上状況

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

■繊維事業

衣料ファブリック部門は、得意とする高感性・高機能素材群の開発で、世界のファッション市場に影響のある欧州トップメゾンへの販売が堅調に推移し、中東市場の民族衣装関連も新商品の導入などで順調に回復しました。又、当連結会計年度中にカジュアルアパレルをM&Aする等、国内ファッション分野においても積極的に投資してまいりました。しかしながら、国内はもとより欧州や中国の経済低迷を受けスポーツ分野が減少しました。

資材ファブリック部門は、医療・福祉のメディカル分野が堅調に推移しました。又、超微多孔スポンジ状セラミック基盤「グリーンビズ」が着実に市場認知度を高め、新商品開発や用途開発を積極的に行い順調に拡大しています。しかしながら国内の消費低迷を受け、リビング関連と生活資材関連等で減少しました。

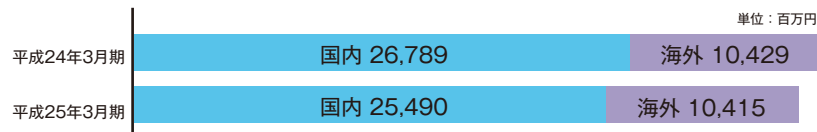
以上の結果、当連結会計年度の当事業の売上高は 34,823 百万円（前期比 3.8% 減）となりました。

■その他事業

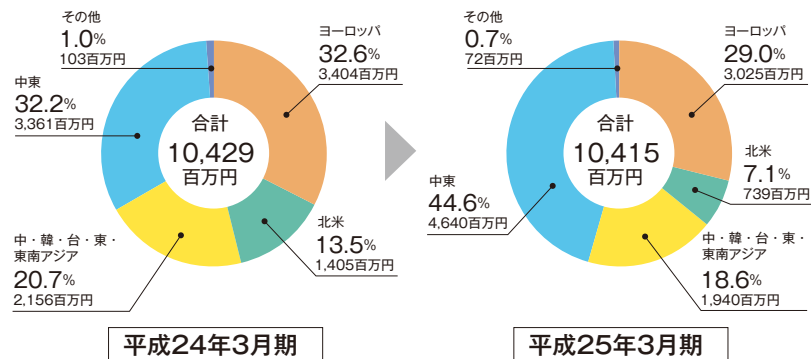
物流分野が堅調に推移し、当連結会計年度の当事業の売上高は 1,082 百万円（前期比 7.4% 増）となりました。

消費地別売上状況

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで



■海外売上高の内訳

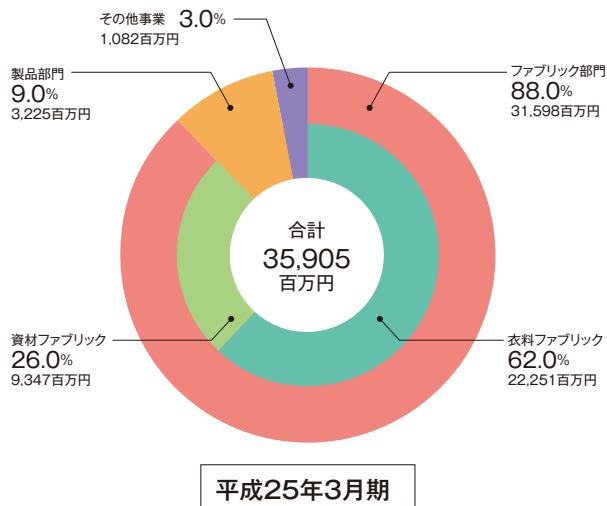
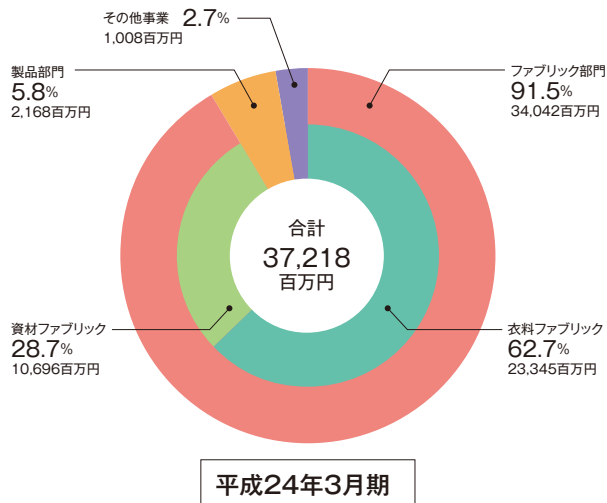


■国内売上高

国内売上高につきましては、湿布剤等の機能性特殊ニット素材が堅調に推移しました。また、超微多孔スポンジ状セラミックス基盤「グリーンビズ」が着実に事情認知度を高め、新商品開発や用途開発を積極的に行ない順調に拡大しましたが、国内消費低迷の影響を受けリビング関連、生活資材関連、スポーツ分野ともに減少。結果、前期4.8%減の25,490百万円となりました。

■海外売上高

欧州、北米の景気後退の影響を受け、スポーツ分野が前期比を大幅に減少するも、世界のファッション市場に影響のある欧州トップメゾンへの差別化交換性素材やオンリーワン素材を積極的に市場投入し販売が堅調に推移しました。また、中東市場の民族衣装関連も新商品の導入し順調に拡大した結果、前期比ほぼ横ばいとなる0.1%減の10415百万円となりました。



小松精練70年の歩み

小松精練は10月8日に創立70周年を迎えます。

これまで当社の事業活動に深いご理解とご支援を賜りました

株主の皆様にお礼申し上げますと共にこれまで当社が歩んできた70年間の軌跡をご紹介します。

1943	10月 小松織物精練染工設立 初代社長：福田三次郎 本社：石川県小松市殿町口93番地 工場：殿町、小馬出町
1944	2月 殿町工場拡張、小馬出工場閉鎖決議
1948	9月 縄平太郎、第2代社長に就任
1949	4月 武部助二、第3代社長に就任
1955	11月 大阪連絡事務所設置 12月 丸の内工場完成
	
1961	6月 大阪連絡事務所を大阪出張所に昇格
1962	7月 東京駐在員事務所開設
1963	9月 根上工場竣工 10月 小松精練株式会社に社名変更 12月 殿町工場閉鎖
1965	6月 輸出貢献企業に認定
1968	11月 山本康二、第4代社長に就任
1970	2月 福井出張所開設 7月 株式会社トーケン設立 10月 大阪証券取引所市場第2部上場
1971	6月 第1号海外合併企業SSTI、タイに設立
1973	4月 販売課新設（自販事業開始）
1974	1月 根上第3工場完成 10月 丸の内工場閉鎖
1975	5月 本店所在地を能美郡根上町に移転
1978	1月 嵐正公、第5代社長に就任 12月 東京証券取引所市場第2部上場 連続減量加工開始
1980	1月 東京・大阪証券取引所市場第1部銘柄指定 ポリエステル改質加工「マーパス」開発

1982	6月 小松エージェンシー株式会社設立
1983	1月 ケーエス染色株式会社設立
1984	12月 大阪・東京出張所を営業所に昇格、 福井出張所は北陸営業所に名称変更
1986	1月 自家発電所完成・稼働
1987	6月 中山賢一、第6代社長に就任
1989	4月 第5工場完成
1990	3月 美川工場完成
1991	3月 研究開発センター完成
	
9月	株式会社コマツインターリンク設立
10月	ファッションセンター完成
	
物流センター完成 天皇、皇后陛下行幸	
	

1992	8月 株式会社ドム設立
1993	6月 DIMA（複合薄膜ファブリック）開発
	
10月	社章を変更
1994	9月 SSTI撤退 11月 TKP（トーレ・コマツ・プリンティング）合併事業開始
2001	5月 上海事務所開設
2002	4月 新触媒素材「ビンテージ織意」開発
	

2003

2月 ブルミエール・ヴィジョン初出展



5月 小松精練（蘇州）有限公司設立、工場建設開始
ミラノショールーム開設

6月 任田賢久、第7代社長に就任、中山社長は会長に

7月 株式会社カ・インパナ設立
小松住江テック株式会社設立

9月 ブランドロゴ導入



2004

1月 電気分解方式による排水処理プラント開発

2月 ダニアレル物質低減加工「アレルバスター」開発

8月 大阪証券取引所上場廃止

11月 小松精練（蘇州）有限公司開業



2005

2月 株式会社クレスポ設立

5月 東京営業所移転



10月 辰口地区のマテリアルデザインラボ設立
染料役者特区「ラボラトリー」を第1工場内に設立

11月 広州ショールーム開設

2006

6月 中山会長が社長兼任

12月 小松住江テック株式会社が株式会社ケイステックに改称

2007

4月 LNGサテライト完成

7月 有機EL封止部材「小松充填シート」開発

11月 テクノピンテーシブJの開発

2008

4月 株式会社ヤマトヤを孫会社化

5月 ケーエス染色株式会社と株式会社クレスポが合併

9月 デジタルプリント素材「モナリザ」開発



2009

1月 ケーエス染色株式会社とドム株式会社が合併

4月 新本社棟・多目的ホール完成



6月 屋上緑化基盤材「グリーンビズ」開発
蓮本 英信、第9代社長に就任

8月 株式会社ヤマトヤと株式会社カ・インパナが合併

2010

2月 エレガント&ドレッシーフアブリック
「ハニーピンテーシブ」開発

2011

1月 池田 哲夫、第10代社長に就任

8月 超保水・超軽量・吸収機能インターロッキングブロック
「グリーンビズグラウンド」開発

2012

3月 大阪営業所移転



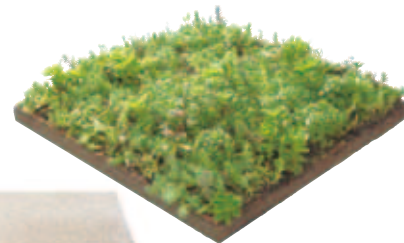
7月 株式会社パッソ買取

9月 ブルミエール・ヴィジョン出展10周年

2013

2月 新しい立体的なテクスチャー感素材「トビーレⅡ」開発

4月 株式会社コマツインターリンク、株式会社ヤマトヤ、
小松エージェンシーの3社が合併



◎「プルミエール・ヴィジョン」出展10周年!! PV 10th Year Anniversary

2012年9月

小松精練は、2003年2月に世界最高峰のテキスタイル見本市「プルミエール・ヴィジョン（PV）」の初出展から、2012年9月19日に10年連続となる20回目の出展を果たしました。展示会初日には会場で「スペシャル・バイヤーズイベント」と題した記念レセプションを開催し、世界的に有名なブランドのトップやデザイナー、バイヤーなど総勢約100人が出席しました。世界最高位で伝統あるPV展の歴史の中でも、単独出展企業が記念レセプションの開催を許可されたのは当社が初めてです。10周年という節目を迎え、世界最高峰の舞台でさらに当社の存在感と信頼性が高まるとともに、今後の更なる事業拡大に向け、新たなスタートをきることができました。



◎百貨店とのコラボレーションで展示販売 「銀座ファッションウィーク」開催

2013年2月

銀座三越と松屋銀座で「銀座ファッションウィーク（GFW）」が開催され、GFWとのコラボレーション企画として、小松精練が三越銀座の9階にファッションとライフスタイルを提案する専用フロアを開設しました。「REVOLUTION with ECOLOGY」をテーマに、デジタルプリントファブリック「モナリザ」を使ったドレスやワンピース、バッグなどのファッション品と、超微多孔発泡セラミックス「グリーンビズ」を活用した卓上観葉植物「テーブルトップガーデン」、九谷焼の器とのコラボでほのかな香を拡



散させ癒しを与える置き香「g cube（ジーキューブ）」といった商品を展示販売しました。当社が百貨店と一体となり、高い技術力で生み出されたファッション商品や環境に優しいライフスタイルを直接お客様へアピールする絶好の機会となりました。

◎自然素材が重要視される中で高評価を受ける 世界的建築家が「グリーンビズ」を採用

2013年3月



歌舞伎座の改修でも知られる世界的建築家 隈研吾氏が設計を手掛けた、富山市呉羽町の舞台芸術パーク内にあるダイニング&カフェ「クレオン」の屋根に、小松精練の屋上緑化材「グリーンビズ r-



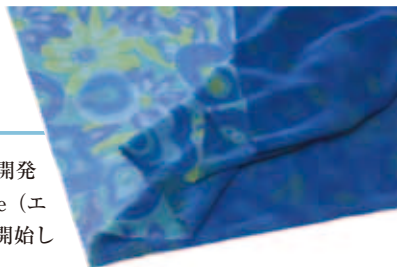
G」が採用されました。隈氏が「小松精練がグリーンビズを東日本大震災で被害を受けた宮城県名取市の仮設住宅集會場に寄贈し、『夏は涼しく、冬は暖かい』と住民から喜ばれている」という新聞記事を目にされ、当カフェの施主である正栄産業株式会社（富山県富山市）へ提案、開発会社である当社並びにグループ会社の株式会社トーケンが施工しました。隈氏からは「建築においても自然素材が重要になっている。グリーンビズはこれだけの薄さ（32mm）で屋上緑化が可能な素晴らしい素材」と高い評価をいただいています。

◎環境配慮型 グリーンファブリック 「Air Dye(エアダイ)」

2012年6月

小松精練は、環境に配慮した表裏異色染色技術の開発に成功し、環境配慮型 グリーンファブリック「Air Dye (エアダイ)」の素材ブランドで、全世界に向けて販売を開始しました。

「エアダイ」の大きな特長は、着色工程で水を使わず、加工時に発生する二酸化炭素を大幅に削減できるといった環境に優しい事に加え、浸透コントロール技術により繊細な風合い管理が求められるファッション、スポーツといった衣料分野での非常に軽くて薄い素材においても、風合いを損なうことなく表裏同時異色染色が可能です。また、カーテン、傘、鞆などといった資材分野の素材にも活用でき、既に国内外のお客様からは「究極のリバーシブル素材」として高い評価を得ています。



◎「ビンテージ繊維」シリーズが未知の領域へ! 超・肉感素材「フルボディビンテージ」

2012年9月

2002年4月に天日干し風のナチュラルな表情を持つ「ビンテージ繊維」を発表して以来、10年目を迎えました。小松精練ではこの節目を機に、これまで培ってきた合繊技術を駆使した新しい「ビンテージ繊維」として「フルボディビンテージ」を発表しました。

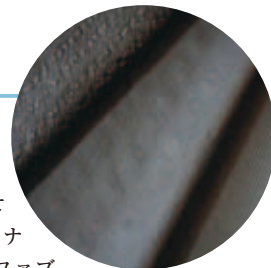
「フルボディビンテージ」は、欧州市場をはじめ、新しいトレンドとして「グラマラスなコンパクト感」「ふくよかなボリューム感」、その他、「ラグジュアリー」「ゴージャス」というキーワードに注目し開発をスタート。独自開発した薬剤とその処方および特殊装置の開発により、糸そのものをボリュームアップ(増量)させ、従来の合繊にはない、上品な肉感と、弾力感を持たせることに成功。斬新かつオリジナリティーの高い新質感ファブリックが誕生しました。現在も国内外問わず、高い人気を誇る素材群となっている「ビンテージ繊維シリーズ」を新たな領域へと誘う新素材となっています。



◎新しい立体的なテクスチャー感を持つ素材 「トピーレII」

2013年2月

「トピーレII」は、合繊でありながら、今までにない立体感を併せ持った斬新かつオリジナリティーの高い新質感ファブリックです。独自開発した特殊薬剤と設備の設計により、素材の特徴を生かしつつ収縮のバランスをコントロールすることで、今までにないナチュラルなテクスチャー感、立体感、表面感を持つ新立体素材が完成しました。今年2月にフランスのパリで開催された世界最高峰の服飾見本市「ブルミエール・ヴィジョン」でプレス発表したところ、欧州のトップメゾンから高い評価を得ました。「トピーレII」の特殊後加工技術は、ここ数年北陸産地を牽引してきたナイロンやポリエステル製の軽量高密度織物のプレーンな表情感に対し、自由に立体的な表面感を生み出せることから、従来定番品にも新たな需要が生まれ、産地の活性化にも繋がります。



連結貸借対照表の要旨

平成25年3月31日現在

資産の部

科 目	当 期	前 期	増 減
■流動資産	24,537	27,014	△ 2,477
現金及び預金	7,361	7,455	△ 93
受取手形及び売掛金	7,728	8,203	△ 474
有価証券	3,940	5,980	△ 2,040
たな卸資産	4,920	5,024	△ 103
繰延税金資産	257	255	2
その他	380	144	236
貸倒引当金	△ 51	△ 47	△ 4
■固定資産	18,414	16,425	1,989
有形固定資産	7,896	8,232	△ 336
建物及び構築物	3,061	3,162	△ 101
機械装置及び運搬具	2,097	2,379	△ 282
土地	2,443	2,450	△ 7
建設仮勘定	29	23	6
その他	264	216	47
無形固定資産	239	249	△ 10
投資その他の資産	10,279	7,943	2,336
長期預金	1,000	—	1,000
投資有価証券	7,370	6,578	791
繰延税金資産	810	1,051	△ 241
その他	1,116	315	801
貸倒引当金	△ 17	△ 2	△ 15
資産合計	42,952	43,439	△ 487

負債の部

科 目	当 期	前 期	増 減
■流動負債	7,241	9,268	△ 2,027
支払手形及び買掛金	5,176	6,564	△ 1,387
短期借入金	251	99	151
未払法人税等	357	647	△ 289
賞与引当金	343	381	△ 37
その他	1,111	1,575	△ 463
■固定負債	4,136	3,983	152
退職給付引当金	3,419	3,469	△ 50
役員退職慰労引当金	516	366	150
環境対策引当金	11	11	—
その他	189	136	53
負債合計	11,378	13,252	△ 1,874

純資産の部

科 目	当 期	前 期	増 減
■株主資本	30,242	29,458	784
資本金	4,680	4,680	—
資本剰余金	4,720	4,720	—
利益剰余金	20,949	20,278	670
自己株式	△ 108	△ 221	113
■その他の包括利益累計額	449	△ 129	578
その他有価証券評価差額金	548	136	411
為替換算調整勘定	△ 98	△ 265	167
■少数株主持分	882	858	23
純資産合計	31,574	30,187	1,386
負債・純資産合計	42,952	43,439	△ 487

単位：百万円

連結損益計算書の要旨

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

単位：百万円

科 目	当 期	前 期	増 減
■売上高	35,905	37,218	△ 1,312
売上原価	28,874	30,164	△ 1,289
売上総利益	7,030	7,053	△ 22
販売費及び一般管理費	5,744	5,078	666
■営業利益	1,285	1,974	△ 688
営業外収益	565	540	24
受取利息	49	48	0
受取配当金	106	97	9
為替差益	43	—	43
持分法投資利益	164	205	△ 41
その他	201	188	12
営業外費用	41	118	△ 77
支払利息	2	1	1
為替差損	—	69	△ 69
その他	38	47	△ 9
■経常利益	1,810	2,396	△ 586
特別利益	185	0	185
固定資産売却益	0	0	△ 0
投資有価証券売却益	67	0	67
負ののれん発生益	117	—	117
特別損失	132	108	24
固定資産売却損	—	3	△ 3
固定資産除却損	10	16	△ 5
投資有価証券売却損	86	87	△ 1
その他	35	0	35
■税金等調整前当期純利益	1,863	2,289	△ 426
法人税、住民税及び事業税	694	771	△ 76
法人税等調整額	42	44	△ 1
■少数株主損益調整前当期純利益	1,125	1,473	△ 347
少数株主利益	△ 74	38	△ 112
■当期純利益	1,200	1,435	△ 235

連結株主資本等変動計算書要旨

単位：百万円

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

当期

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
平成 24 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	20,278	△ 221	29,458	136	△ 265	△ 129	858	30,187
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 513		△ 513					△ 513
当期純利益			1,200		1,200					1,200
持分変動差額										
自己株式の取得				△ 2	△ 2					△ 2
自己株式の処分			△ 16	115	99					99
株主資本以外の項目の変動額						411	167	578	23	602
連結会計年度中の変動額合計			670	113	784	411	167	578	23	1,386
平成 25 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	20,949	△ 108	30,242	548	△ 98	449	882	31,574

前期

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
平成 23 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	19,604	△ 217	28,788	△ 19	△ 258	△ 277	824	29,335
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 511		△ 511					△ 511
当期純利益			1,435		1,435					1,435
持分変動差額			△ 249		△ 249					△ 249
自己株式の取得				△ 4	△ 4					△ 4
自己株式の処分			0	0	0					0
株主資本以外の項目の変動額						156	△ 7	148	33	182
連結会計年度中の変動額合計			673	△ 3	670	156	△ 7	148	33	852
平成 24 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	20,278	△ 221	29,458	136	△ 265	△ 129	858	30,187

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

科 目	当 期	前 期	増 減
■営業活動によるキャッシュ・フロー	1,368	3,069	△ 1,701
税金等調整前当期純利益	1,863	2,289	△ 426
減価償却費	1,296	1,359	△ 63
負ののれん発生益	△ 117	—	△ 117
引当金の増減額（減少：△）	△ 46	△ 227	181
売上債権の増減額（増加：△）	654	△ 133	787
仕入債務の増減額（減少：△）	△ 1,481	49	△ 1,531
たな卸資産の増減額（増加：△）	351	△ 471	823
法人税等の支払・還付（支払：△）	△ 1,068	△ 241	△ 826
その他	△ 82	446	△ 529
■投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 383	△ 2,409	2,026
固定資産の取得による支出	△ 1,124	△ 1,239	115
固定資産の売却による収入	0	4	△ 3
定期預金の預入・払戻（預入：△）	△ 486	△ 139	△ 346
有価証券の取得・償還（取得：△）	2,040	△ 949	2,989
投資有価証券の取得・売却（取得：△）	△ 19	△ 106	87
その他	△ 794	21	△ 816
■財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 730	△ 727	△ 3
短期借入金の純増減額（減少：△）	△ 313	△ 210	△ 103
配当金の支払額	△ 513	△ 513	△ 0
その他	97	△ 3	100
■現金及び現金同等物に係る換算差額	41	0	42
■現金及び現金同等物の増減額（減少：△）	296	△ 67	364
■現金及び現金同等物の期首残高	7,008	7,018	△ 10
■連結範囲の変更に伴う影響額	—	57	△ 57
■現金及び現金同等物の期末残高	7,304	7,008	296

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務 取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031
URL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
1単元の株式の数	1,000株
公告の方法	電子公告(当社ウェブサイトに掲載) http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html ※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、 日本経済新聞に掲載して行ないます。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

役員・執行役員

平成25年6月27日現在

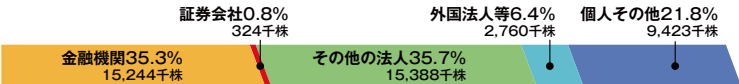
役 職	氏 名
代表取締役会長	中山 賢一
代表取締役社長	池田 哲夫
専務取締役	高木 泰治
取締役	奥谷 晃宏
取締役	尾野寺 賢
取締役	中山 大輔
取締役	大矢 光雄
取締役	天雲 一裕
取締役	北野 均

役 職	氏 名
監 査 役	竹内 和也
監 査 役	阪根 勇
監 査 役	根上 健正
執行役員	向 潤一郎
執行役員	米澤 和洋
執行役員	金法 順正
執行役員	松尾 千洋
執行役員	米谷 俊泰
執行役員	毛利 祥規
執行役員	茶谷 秀樹
執行役員	折本 忠

発行済株式数・株主数

発行済株式数 ● 43,140,999株
株主数 ● 3,344名

所有者別分布状況



大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
東レ株式会社	2,649 千株	6.18 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,356 千株	5.49 %
株式会社北國銀行	2,113 千株	4.93 %
小松精練松栄会	1,520 千株	3.55 %
日本生命保険相互会社	1,467 千株	3.42 %
株式会社北陸銀行	1,263 千株	2.95 %
三菱商事株式会社	1,250 千株	2.91 %
三井住友信託銀行株式会社	1,230 千株	2.87 %
株式会社クラレ	1,090 千株	2.54 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,083 千株	2.52 %

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社の概況

商 号	小松精練株式会社	大阪営業所	大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービス E N T オフィスタワー8階)
設立年月日	昭和18年10月8日	東京営業所	東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トランス銀座ビルディング8階)
資 本 金	46億8,042万円	北陸営業所	石川県能美市浜町又167番地 (小松精練株式会社 本社2階)
本 社	〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地	上海事務所	中国・上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)
本 社 工 場	同 上		
美 川 工 場	石川県白山市鹿島町1号7番地 1		

グループ企業

小松精練(蘇州)有限公司	中国・江蘇省蘇州市	株式会社パツツ	東京都渋谷区
ケーエス染色株式会社	石川県能美市	株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
株式会社ケイズテック	石川県白山市		

 **小松精練株式会社**
www.komatsuseiren.co.jp/